



ホームページ  
http://www.yanagida-kaigo.co.jp/

会報第170号  
平成28年4月15日発行  
発行所…(有)明寿会  
住所…川崎区中島1-13-3  
電話044-2333-0061  
\*定例会は最終土曜日です。  
(今月は3月26日)です。

## 第171回 介護体験を聞く会

### グループホームの 利用で落ち着か れた93歳女性 の事例検討

平成28年3月26日  
(水)

#### 参加者

「職員」院長、柳田CM、  
柏倉CM、高橋、長谷川、  
板井、石川、漆原、太田、  
桜沢、杉山、谷、厚川、  
前田

「ご家族」Oさんの長女、  
菊池さん、野々目さん、  
藤田さん、森下さん  
その他の関係者

議題…Oさんの事例検討  
氏名…Oさん(女性)  
生年月日…大正11年7  
月4日(93歳)  
介護度…要介護2  
利用開始日…平成27年

8月20日 (グループ  
ホーム旭町ショートステ  
イ)平成27年9月1日  
グループホーム旭町本入  
居

出身地…群馬県  
趣味…歌が好き  
性格…しつかり者  
主介護者…長女

既往歴…アルツハイマー  
型認知症・狭心症・肝疾  
患、現在の内服薬…補  
中益気湯(ホチュウエツ  
キトウ)Ⅱ胃腸の働きを  
良くする漢方薬

\*現在のADL(日常生活  
活動作)

「歩行」自立されている  
が、ふらつく時もある。  
「食事」ご飯はおかゆ、  
おかずは大きいものは刻  
みで自己摂取される。  
「更衣」自力でできる。  
「排泄」日中の失禁は少



### 幼老交流

ないが、夜間は失禁があ  
るためリハビリパンツと  
パットを使用。  
「入浴」手の届くところ  
は自分で洗える。浴室内  
の移動は転倒の危険があ  
るため見守りが必要。

「生い立ち」  
・大正11年 群馬県で生  
まれる。9人兄弟の8番  
目。  
・父親は妹の誕生後に亡  
くなり、よく兄弟に育て  
られたと話す。

・女学校卒業後、中島飛  
行機に勤める。  
・終戦後結婚、長女を出  
産して上京。  
・自宅の2階を学生さん  
に貸して下宿屋を営む。  
次女を出産。

・PTA副会長や町内会  
の青少年委員など歴任。  
・夫の転勤で川崎に引つ  
越す。

・日本鋼管の売店を譲り  
受け、夫と一緒に働き始  
める。  
・平成14年 夫が亡くな  
り、長女のマンションに  
同居する。

・平成16年 日本鋼管の  
売店で81歳まで働き、  
川鉄との合併で廃業にな  
る。

・長女が昼間は働きに出  
ていたので、廃業後は1  
人マンションで過ごす。  
・平成22年 葉が部屋に  
転がっているのでおかし  
いと思い、鋼管クリニッ  
クの物忘れ外来を訪ねア  
ルツハイマー型認知症と  
診断される。その後介護  
認定を受け要支援1とな  
る。

・平成23年2月 デイサー  
ビス利用開始。  
・平成23年7月 区分変

更し、要介護1となる。  
・平成25年7月 要介護  
2となる。  
・平成27年8月 グルー  
プホームに1週間ショール  
トステイされ、本入居と  
なる。

「入居までの流れ」  
平成23年2月デイサー  
ビスそよ風を週1回利用。  
・7月に区分変更をして  
要介護1となる。なるべ  
く体を動かすデイに行か  
せたいとデイサービス憩  
に変更し週3回利用する。

・11月、デイサービス  
に行かない日に「何で今  
日はどこも行かないの？」  
と何回も尋ねてくるので  
デイサービスを週5回に  
増やす。

・平成24年1月、ご家  
族が急に不在になった場  
合を考え、ゆとりあショール  
トステイを申し込む。最  
初は「行ってもいいわよ」  
と話していたが直前になっ  
て「行かない」と言い出  
し中止になる。

・平成25年7月に要介  
護2となる。  
・平成26年5月、ショール  
トステイのあるデイサー  
ビスを利用して、慣れた



らショートステイも利用したいとのこと、週に1度はしおんデイサービスに通う。

・10月、しおんショートステイを利用する。本人にどうだったか尋ねても全く覚えていない。

・平成27年8月、ご家族の希望では、なるべく家で過ごしてもらいたいが、自分たちが急に介護ができなくなった場合に不安がある。また、同じ事を何度も聞いてくるのでストレスが溜まっている、とのことでグループホームでのショートステイをする。

・9月、本人もグループホームを気に入って下さり、その後本入居となる。

「入居当初の様子」

感心する高齢者



・入居当初は足腰しつかりされていて、お散歩でも先頭をスタスタと歩いていました。

・家事作業はあまりされませんが、洗濯物たたみは自分から手伝って下さっていました。

・食事が少なく1、3、5程しか食べず、水分もあまり摂られませんでしたが。

・落ちていた物を見て「拾いなさいよ」と強い口調で同居者に言ったり、残さず食べましょうと声掛けすると「もういいわよ」と少しムツとした様子で話されていました。

・歌うのは好きで、歌の時には大きな声で楽しそうに歌われ、お上手ですねと声を掛けると「そんなことないわよ」と照れた様子で話されていました。

・歌うのは好きで、歌の時には大きな声で楽しそうに歌われ、お上手ですねと声を掛けると「そんなことないわよ」と照れた様子で話されていました。

「入院前後の様子」

・平成27年10月、就寝時に様子がおかしく名前を呼んでも答えず意識朦朧としている。すぐに柳田院長に診てもらい救急車で川崎市立病院へ。

脳梗塞と診断され、そのまま入院となりました。

・3週間程で退院となりグループホームに戻られました。戻られた時には、足元にふらつきがあり手引き歩行で対応。外出時は車いすを使用する。口数も少なくなり、お好きな歌でもあまり声が出ていませんでした。

「現在の様子」

・現在では、まだふらつく時もありますが足取りもしっかりしてきて、平棒を使った体操でもしっかり足が上がり、よく運動されています。散歩の時でも車いすにつかまりながら商店街など歩いて行かれます。

・徐々に口数も増えてきていて、冗談を言ったりもされます。お願いするとカルタの読み札を読んでも下さったりもします。また、歌う声も大きくなり終わりのあとも「もうなさそうにされることもありません。

・相変わらず水分の進みは悪いですが、食事は毎食のように完食されるようになり職員も驚いています。

「意見交換」

柳田CM…背筋がピシッとされていて姿勢が良いですよ？

長女さん…81歳まで立って売店で働いたからですかね。ひとりになってからも近くの公園まで散歩したりしていました。院長…81歳まで、凄いですね。

長女さん…そうですね、お客さんとは馴染みがありましたけど、自分もこの年になって母はよくやっていたなって思います。父と母とパートの方と働いていて、父が倒れてからは私も手伝っていました。院長…売店が廃業になったから、する事がなくなりました。長女さん…私も働きに出ましたから、ひとりになってしまいました。

院長…それが人生のひとつの転機になり、廃用性の萎縮が進んだケースですかね。長女さん…母は足がしつかりして健康だから介護施設は利用できないと思っ

ていました。売店で働いていた時でも毎日来るお客さんがわからなくなっていたり、お鍋を焦がす事もあり、その頃から認知症が始まっていたのかと思います。ただ、会計のミスは無く数字は強かったです。

院長…その後、部屋に葉が転がっていることで異変を感じ、物忘れ外来を訪ねられたと。長女さん…以前から一人で病院に通っていたが、どこが悪いのか尋ねても答えが返ってこず、病状は把握していませんでした。一緒に病院へ行こうとしたが認知症と思われる事が嫌で拒否がありました。もう少し早く受診していればと思う事もあります。

柳田CM…自分の身の回りのことは自分でされていたんですね。長女さん…はい、自分でも惚けちゃうと思って川崎駅前に麻雀しに行っていたが、麻雀もできなくなっていました。下宿屋の時に麻雀を覚えたみたいですよ。柳田CM…デイサービス



に通い始めてどうでした？  
長女さん…妥協せず「なんでここに居るの？」と自分の意見をはっきり言うのでデイサービスをいくつか変えました。人に指図されるのをとても嫌がるのかな？と思っていたが、「今日はどこにも行かないの？」と言う日が多くなり、これが7日あればと思っていたところグループホームがあるとCMから聞きました。協調性がないので、輪の中に入るのか心配でした。

院長…脳梗塞の後遺症がほぼみられない様子ですが。  
長女さん…そうですね。意識も手足も変わったところはありませんね。  
院長…ふらつきはあるよね？  
高橋職員…はい。寝起きや立ち上がりは必ず注意してします。  
院長…他のホーム内の様子は？  
高橋職員…唄はお好きで歌われていて、以前と違い些細なことでもお礼を仰る様になりました。最初の頃は17時になったから「帰りたい」と言われることがあり、今でもたまに言われるが馴染みの利用者さんが丁寧に説明して下さって納得されています。  
院長…入所当初は全然食べられなかったですね。現在はどうかですか？  
高橋職員…今は全量完食されることが多いですし、水分も自ら飲まれるようになっていきます。

院長…脳梗塞の後遺症がほぼみられない様子ですが。  
長女さん…そうですね。意識も手足も変わったところはありませんね。  
院長…ふらつきはあるよね？  
高橋職員…はい。寝起きや立ち上がりは必ず注意してします。  
院長…他のホーム内の様子は？  
高橋職員…唄はお好きで歌われていて、以前と違い些細なことでもお礼を仰る様になりました。最初の頃は17時になったから「帰りたい」と言われることがあり、今でもたまに言われるが馴染みの利用者さんが丁寧に説明して下さって納得されています。  
院長…入所当初は全然食べられなかったですね。現在はどうかですか？  
高橋職員…今は全量完食されることが多いですし、水分も自ら飲まれるようになっていきます。

て頭と身体、体力の維持をしていきましょう。  
「家族相談会」  
森下さん…今この話を聞いていて認知症の症状が母に近い印象です。デイサービスでの食事や服薬をすぐ忘れてしまう。母の認知症状を如何に理解していくのが私の課題です。腹を立てずに受け入れていくコツが知りたい。  
長女さん…ここ最近の事、話したくない事を聞かずに、自然と話す事を何度でも聞いてあげる姿勢を大切にしています。  
野々目さん…私の姉も食べたことをすぐ忘れてしまう。最近4kg位体重が増えているのに何も食べてないと言います。  
柳田CM…藤田さんのところはどうか？  
藤田さん…一緒に買い物に行って、朝昼晩数日分の食事を買ってきても一気に全部料理してしまおう。今は食材を隠す様にしていきます。後は、4時間位出掛けていても何をしていったのか忘れてしまう。今行って今帰ってきた感じで時間が消えちゃって

います。いよいよよだなっと思っています。  
長女さん…小さい頃の話はまだできます。最近の話をしてしまうとドキッとしてしまいます。  
院長…今グループホームでは朝の会で「いぬぼうカelta」をしている。ことわざは結構皆さん覚えていきます。自信になるし、頭の活性化に繋がっています。  
森下さん…計算はある程度できるので、休みの日には脳トレをしています。  
桜沢職員…グループホームでは本人がわかることを引き出してあげて、できる問題を出し、自信に繋げるようにしています。  
柳田CM…できない問題はストレスになり意欲の低下にもなりますからね。  
院長…自信を持たせるケアをしていきましょう。  
「グループホーム旭町運営推進会議」  
グループホームでは現在9名の方が入られていて、そのうち2人の方が入院されていて、本日お1人退院されてもう1人の方はもう少し掛かるという状況です。

スタッフの方は、板井職員が3月16日から勤務しています。経験者ですのでスムーズに覚えられています。また、運転もできるのでドライブも楽しめるので期待しています。運転できる人が3人に増え、ご利用者の通院等も支障なく行え活動的になっています。

## ☆母の介護体験

グループホーム入居者  
家族 菊池祥子

介護と言う程の事はしていないので今迄に起こった「出来事」位の事で書かせていただきます。大分前なのでメモを見ると、未だ私が広島県に住んでいた時に義妹から「母が少し変」と言うメールが有り、私は一年に1回は帰省をしていた時、同じ事を何回も言っていたのを思い出した。6年以前に帰省した時母の様子が変で広島に帰る時に連れて来た事が有りました。今まで忙しく、又川崎が一番好きだそうで我が家に泊まっても精々5日位



だったので長期は初めてでした。其の時父に捨てられたと言っていたのを思い出しました。今、思えば不安だったのかな、又思いを伝えられないので歯がゆいのかと思います。もしや？と思っても認めたく無い自分があるので其のままにしています。それから何回かは帰省をしていました。その間は父が見ていたのかと思います。0六年年十月三十一日に現在の地、栃木県に帰って来ました。帰省してからは十日に一回病院に薬を頂きに行くので通ったかと思いません。私が行かない間は父が良く面倒を見ておりました。0九年頃からは1週間に1度位になっておりました。何年頃かは忘れましたが、母の病院の付き添いで整形外科に行った所今日は予約が無いと言われ先生にも隣の部屋の神経内科の診察を受けた方が良いと言われ先生に「アルツハイマーと宣告されました。やっぱりと、思ったのと嘘だと！のショックが覚えたのが思い出さ

れます。それから現在は現在で柳田のデイサービスに通う様に成りましたが、未だ私にはアルツハイマーと言う病気の事が良く理解出来て無く母の言う事にいちいち反応して怒ったりしてしまいました。少しでも理解しようとして地域の介護施設の傾聴のボランティアをしたり介護体験をしたりしましたが少しは役立ったとは思いますが真の事は理解出来ないのかと思います。デイサービスも最初は未だ元気だったので帰って来ると少しは家の事をしていたのでお風呂に入って来ると湯冷めをすると思いついていなかっただけで、家で入れようとすると入りたくないと言ったり他にも段々言う事を聞かなく成ってきました。そんな時父が足を骨折して入院しなくてはいけなくなり今迄、父が何とか見ていたので母も家にいて不自由ながらも楽しく過ごしていたのがショートステイへ行く事が決まり家を離れたら不安が一杯になったのか施設の方から連絡が有

り、電話口で「親を何と思っているのか！」と凄いい剣幕で私もすっかり参り、母を連れて帰り2日程実家にいた記憶は忘れられません。そんな折、他のホームが空いているとの事で見て頂く決心をしました。私としたり何か後ろめたい気持ちも有りました。当時は夫も脳梗塞の後遺症が現れてこれ以上は母の面倒も見られないし、弟の所も孫の面倒を見なくてはいけなし、思い切ってお願いをしました。が又、新たな問題が出来ました。先ず困らせたのが1週間に一度の割合で面会に行つたのですが会う都度「迎えに来てくれたの」と嬉しそうに言われたのには参りました。何時でも帰る支度もしていません。何処も悪くないのに何で此処に居るのか？お金の心配もしていません。夕方になると父の夕飯の支度と思うのか、電器釜を触りたく成るそう。そう言われても困るばかり何と返答して良いか分かりません。困ってい

るからお願ひしているのではないかとも思いました。面会に行く日が苦痛に思えましたが、解決方向が見出せないまま私に出来る事はこれしか無いと思いついていました。其処は昼間只、テレビが付けて有るだけで、何もしてくれませんが、私はグループホームは家に居る感覚で過ごす所と聞いていたので思っていたのとは大違いです。家族は看て頂く側なので意見と言われても弱い立場なので思っています。其の内母の様子が

\*母の95歳の誕生日  
平成28年3月27日



段々おかしくなり顔の表情も無くなって来ました。良く解りませんが薬の精かと思えます。その様な時に柳田さんから部屋が空いたのでどうかと言われ願っても無い事なのでお願い致しました。顔なじみです。家にも近い、近ければ父にも会えると思つたのです。でも家に連れて来て「帰るの嫌」と言われたら困るなど思ひそう話をしたらその時は此方で何とかすると力強い返事が返って来たので安心しました。これで何時帰りたいと言われても実家に連れて来られると思つたら母に会いに行くのが楽しみに成りました。その様な訳で父の面倒も思い切り出来ました。母も現状で楽しく生きていけたら幸せなのかなと思います。多くの方々の助けで悩む程の事は無く介護を続けられております。一人ではとても続けられませんでした。此の様な機会を与えて頂き、拙い文面ではありますが、私も色々懐かしく思い出し又思い出に成ると思えます。有難う御座いました。